

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：32653

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K17394

研究課題名（和文）看護師の経済的・社会的・組織的価値認識 3次元共通価値拡大モデルの構築

研究課題名（英文）Economic, Social, and Organizational Values of Nursing Practice in Wards as Perceived by Nurses: A Multidimensional Shared Value Extension Model

研究代表者

國江 慶子 (Kunie, Keiko)

東京女子医科大学・看護学部・准教授

研究者番号：80748898

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、看護師が認識する自部署での看護実践の多面的な価値と、それらが重なり同時に実現する共通価値を明らかにし、価値認識拡大モデルを構築することを目指した。インタビュー調査の結果、看護師は部署での実践に、複数の多様な側面の価値を認識していた。それらの価値はそれぞれの実践に同時に認識されていることが明らかになった。また、ケア後の患者の観察、同僚との話し合い、退院後の報告など、日常的な様々な場面や文脈が、看護実践の価値を認識する機会となり得ることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では看護師が認識する各部署での看護実践の価値の多面性とそれらが同時に存在しうることを明らかにした。また、部署内外での患者や実践に関する対話の機会が価値認識の拡大に寄与する可能性を示した。この結果は、部署での看護実践の価値の構成を示すとともに、自部署の実践の価値や、看護師の価値認識の拡大に向けたマネジメントの検討に活用できる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to examine the value generated by nursing practices in each hospital ward, as perceived by nurses. It aimed to identify and understand the various aspects of value, explore potential shared value where they overlap, and gather insights for expanding value and shared value. The nurses' narratives encompassed not only their perspectives on patient care but also their views on hospital management, effective practices in other departments and facilities, and the wider reach of those practices. Multiple perspectives were considered for an individual practice. Nurses had the opportunity to think about the potential outcomes and achievements of their practice across various contexts, such as patient outcomes, discussions with colleagues, and post-discharge reports. The findings revealed that practices within each department exhibited multiple and diverse values that could overlap and coexist concurrently. Dialogue with others may broaden the perspective of perceived value.

研究分野：看護管理学

キーワード：看護実践 価値認識 多面的価値 共通価値 看護師

1. 研究開始当初の背景

近年の激変する競争環境を背景に、企業では組織独自の資源や専門性を活用し、「経済的価値(企業利益)」と「社会的価値(社会課題への取り組み)」を同時実現する『共通価値』(Porter & Kramer, 2011)が注目され、企業毎の取り組みが進められている。医療を取り巻く環境も大きく変化しており、平成 25 年には医療介護総合確保促進法が制定され、都道府県は地域医療構想を策定し機能分化を推進する必要がある、医療機関は医療機能の自主的な選択を求められている。病院が社会のニーズに応えつつ健全に存続するためには、企業と同様に、地域での独自の役割や機能を熟考し、経済的価値と社会的価値を同時実現することが重要である。

病院での多くの実践は経済的価値と社会的価値の両方を持ち得る。例えば看護領域では、退院支援や褥瘡ケアは診療報酬加算の算定に繋がり、「経済的価値(病院利益)」がある。同時に、患者へよい結果をもたらす「社会的価値」、さらに医療費抑制に貢献する「社会的価値」も実現できると考える。このように、看護実践にも「経済的価値」と「社会的価値」を同時実現する複層的な「共通価値」が存在すると考える。しかし、看護職が実際に自身や部署の実践にどのような価値を認識しているか、また価値がどのように存在するのかについては明らかになっていない。

看護師は、部署での看護実践に関わる対話や上司の関わりを通し、部署での看護実践の価値を認識することが考えられる。しかし、価値認識やその認識の拡大に繋がる環境や状況についても分かっていない。看護師が部署で行う看護実践の多様な価値を認識することで、仕事や実践を意味付けることができると考える。本研究で明らかになった結果を参照することで、自部署での看護実践の価値の確認や新たな価値に認識に繋がる可能性がある。また、価値の認識や拡大に向けた関わりを検討する一助となる。

2. 研究の目的

本研究では、看護師が認識する部署の看護実践の価値の側面を明らかにすること、さらに認識される多様な看護実践の価値の重なりを検討すること、加えて、価値の認識や共有・拡大に繋がる要素を探索することを目的とした。

3. 研究の方法

1) 研究デザイン

半構造化面接による質的研究

2) 対象

(1) 対象施設・部署

病院の特性や部署の特性が反映された看護実践から多様な価値を抽出するため、中規模病院を対象とした。病院ホームページ上に当該病院の理念や機能、また看護部門の方針や看護実践の記載が確認できる病院を研究者が選定した。看護部門責任者の承諾が得られた病院において、部署の特性が反映された看護実践が多く行われている部署を選出していただき、対象部署とした。

(2) 対象者

対象部署に勤務する看護師長および看護師とした。なお、看護師の対象者は、看護師長に依頼し、対象部署での看護実践について語るができる看護師を推薦してもらった。

3) 調査方法

対象者に研究協力を依頼し、同意が得られた看護師を対象にインタビューを行った。インタビューでは自部署での実践と、それらが何に役立っているかや、実践の意図や帰着について尋ねた。インタビュー内容は録音し、語りは逐語録にした。

4) 分析方法

質的帰納的に分析した。具体的には、看護実践とその意図や帰着、意義の語りを抽出し、実践により生じる結果の視点から、意味内容を検討し類似性よりまとめ、実践の価値として概念を生成した。また、実践に対するそれらの価値の在り方を確認した。さらに、その意図や意義を捉えるようになったきっかけやプロセスを抽出し、分類した。

4. 研究成果

5 病院 10 病棟の看護師長及び看護師 33 名に半構造化面接を実施した。

以下の 4 点の知見を統合し、看護師が認識する部署での看護実践の共通価値とその拡大構造をモデル化を検討した。

1) 看護実践の価値の認識

看護師は自部署での実践が何かに貢献している、役立っていると実感し価値を見出しているとは限らず、役立っていることとしては認識していない、もしくは確信していない語りもあった。しかし、看護師の語りには、語られた実践の意図や帰着には実践がもたらす成果が含まれていた。この研究ではそれらを含め実践の持ちうる価値と捉えて分析した。

2) 認識された自部署の看護実践の価値

自部署の看護実践には、まず看護の対象者である患者が回復することや、患者・家族が納得した療養生活を送ることにつながることで認識されていた。患者に対する価値は常に看護実践に認識される価値であった。他部門や他部署がそれぞれの役割を果たすために役立っていることや、診療報酬などの含む経済的な側面を含む、病院の円滑な運営に関わることも認識されていた。そのほか、自部署の実践により、他施設とともによい患者ケアを提供することや、他者の価値観が変化につながることも語られた。看護師が語る自部署の実践には、患者だけでなく、経営や他の部署や施設での効果的な実践や他者への影響などの視点も含まれていた。

3) 看護実践の多様な価値の重なり

語られた 1 つもしくは 1 連の部署での実践には、複数の側面の価値が含まれていた。部署の実践は多様な価値が重なり同時に存在し、共通価値の構造を持ちうる可能性が示された。看護師は、実践の多面的な価値を断片的に複数の側面を認識していることは少なくなかった。その一方で、看護師自身が部署での実践に同時に複数の価値があると実感しているとは限らず、複数の価値を関連づけて認識するか、同時性のある事象として捉えるは、個人により差があった。

4) 看護実践の価値の認識の拡大

看護師は、看護実践により得られる成果や貢献した結果を、様々な場を機会に、新た

に認識したり、再確認したりしていた。例えば、患者ケアから得られるフィードバック、患者アウトカムに関する評価や話し合い、カンファレンスでの患者に関する会話、診療報酬に関するお知らせ、チェックリストの作成などが挙げられた。これらの場や状況で、自らや部署での実践を振り返り考える機会や他者の言葉を聞く機会を得ることにより、実践に認識する価値の視点が拡大し、実践に多様な価値を重ねて捉えることができる可能性がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------